

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	4	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	68	42	ヘルパンギーナ	13	15
咽頭結膜熱	7	9	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	62	60
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	80	79	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	225	226	流行性角結膜炎 (はやり目)	8	5
水痘	45	44	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	17	10	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	4	12	マイコプラズマ肺炎	3	6
突発性発しん	28	45	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い
感染症

- 感染性胃腸炎
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎
- RSウイルス感染症

- 感染性胃腸炎は、報告数 225件(前週報告数 226件)で前週とほぼ同数。地区別では、有明、宇城、山鹿に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の38件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数80件(前週報告数79件)で前週とほぼ同数。地区別では、天草、熊本、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、6歳の14件を最多に幅広い年齢層からの報告である。
- RSウイルス感染症は、報告数 68件(前週報告数 42件)と増加。地区別では、八代、菊池、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の29件を最多に、3歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	22	3	46	43	19	0	0	15	0	3	20		7				1
山鹿保健所	0	0	0	0	14	2	0	0	1	0	0	1	*	*				
菊池保健所	0	12	1	7	15	7	0	1	3	0	0	12						
阿蘇保健所	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	19	0	3	20	0	1	0	2	0	0	5						
水俣保健所	0	0	1	0	8	0	0	0	1	0	0	4	*	*				
人吉保健所	0	1	0	0	10	5	0	0	0	0	0	0	*	*				2
有明保健所	0	3	0	3	65	5	0	0	2	0	0	12		1				
宇城保健所	0	5	0	8	26	5	0	0	3	0	1	0						
天草保健所	0	5	2	13	19	1	16	2	1	0	9	8						
計	0	68	7	80	225	45	17	4	28	0	13	62	0	8	0	0	3	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	68	11	19	29	8	1																
咽頭結膜熱	7		1	1	1				2	2												
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	80	1	2	5	3	7	13	6	14	10	3	5	8		3							
感染性胃腸炎	225	5	23	38	20	22	24	20	18	15	6	4	14	2	14							
水痘	45	3	4	14	9	4	3	2	1	1	2	1	1									
手足口病	17		1	3	9	2	2															
伝染性紅斑	4						1	1				1	1									
突発性発しん	28		11	16	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	13		5	4	3		1															
流行性耳下腺炎	62		1	4	5	11	10	16	7	4	1	1	2									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	8						1									2	1				3	1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	3			3																		
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

ありませんでした。

RSウイルス 感染症



RSウイルス感染症は、9月以降じわじわと報告数が増えています。先週はいったん減少しましたが、今週再び増加しました。患者報告数は、例年12月又は翌年の1月にそのピークを迎えます。冬に向けて更に報告数が増えると予想されますので、今後の動向に注意が必要です。症状は一般的に、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快します。2歳頃までに、ほぼ全ての人がかかっていますが、初めてかかった場合、約30%に細気管支炎や肺炎などを起こします。特に生後6ヶ月以内の乳児や、早期産で出生した乳児、循環器疾患のある乳幼児では重症化しやすいので注意が必要です。ウイルスは咳やくしゃみのしぶきから感染します。流行期には赤ちゃんをごみに連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いをきちんと行うなど、乳幼児のいる家庭では、家族全員で予防しましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課